

Q & A

- Q. 研究インターンシップについて、何か決まり事はありますか？
- A. 授業としての履修の決まりがあります。研究インターンシップのシラバスを確認してください。
- Q. 研究インターンシップは何の目的で行くのでしょうか？
- A. 学習してきた知識や技術を実践で試してみること、多様な人々・研究手法に触れ、高度工学人材としての実力を向上させることを目的とします。
- Q. 学生が自分で見つけてきたインターンシップでも条件がそろえば認めてもらえますか？
- A. 指導教員に相談してください。指導教員の指導の下、研究インターンシップの目的に即していれば問題ありません。
- Q. 大学院から名工大に入学しました。4月から準備しても間に合うのでしょうか？
- A. 創造工学推進センターが紹介する派遣先がありますので相談できます。また指導教員が派遣先を紹介できる場合もあります。
- Q. 期間中に、名工大で開講される他の科目を履修することはできますか？
- A. インターンシップ先に毎日通いますので、その期間中に本学で開講されている他の科目は原則受講することはできません。その科目が他のクォーターで履修できる場合もありますので、指導教員に相談し、検討してください。

研究インターンシップに関する問い合わせ・連絡先(平日8:40~17:10)

学修に関すること 名古屋工業大学 創造工学教育推進センター
19号館2階 TEL: 052-735-7973

手続に関すること 【国内】名古屋工業大学 学生生活課 就職・キャリア支援係
19号館1階 TEL: 052-735-5075
【海外】名古屋工業大学 国際交流課 学生交流係
19号館2階 TEL: 052-735-5350

2023年度用
(2023年3月発行)

名古屋工業大学 研究インターンシップ

(博士前期課程 対象)



Nagoya
Institute of Technology

研究インターンシップの概要と目的

研究インターンシップの概要

名古屋工業大学の研究インターンシップは、大学院博士前期課程の学生が日本国内外の研究機関や企業等において、各自の分野・関心と関連した研究・開発活動に参加するものです。

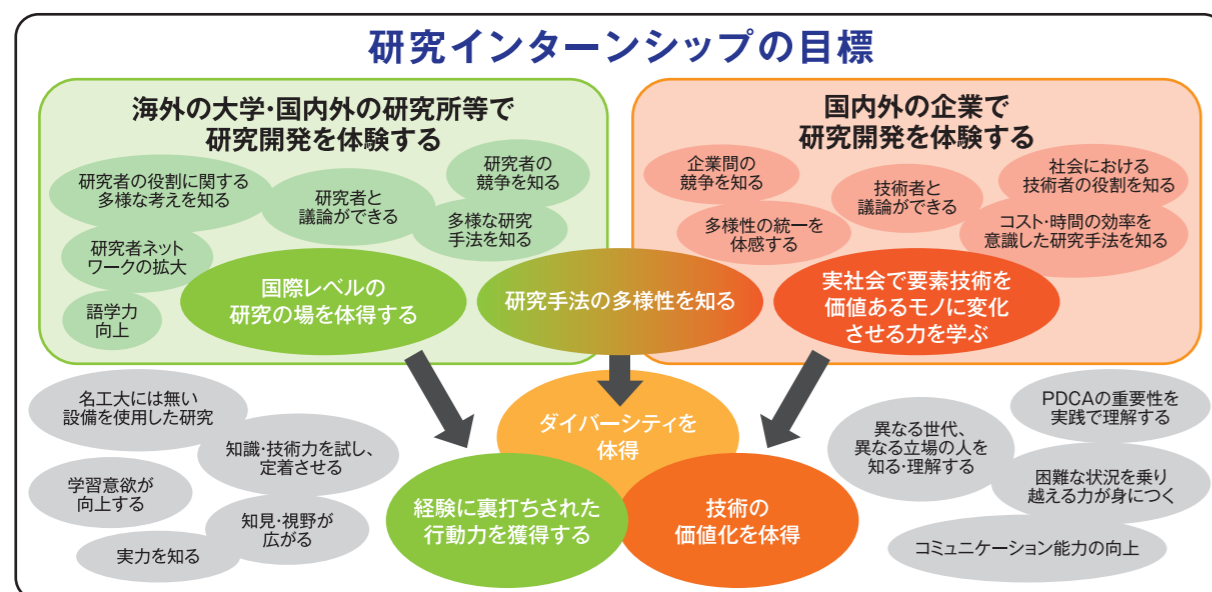
研究インターンシップは、単なる就業体験とは異なります。研究・開発等を通じて自身の技術力や経験等、高度工学人材としての実力を獲得する実習活動です。学生は所属する研究室指導教員の指導に従い、研究インターンシップを進めます。

研究インターンシップの目的

これまでに学んできた知識や技術を実践で活用し、研究・開発能力を向上させるとともに、多様な人々や多様な研究・開発手法に触れ、高度工学人材としての実力を格段に向上させることを目的とします。

研究インターンシップの具体的な目標は各自が様々に想定することができます。例えば次の項目を挙げるすることができます。

- ① これまでに学んできた知識・技術が実社会においてどのように活用され、製品やサービスの開発につながっているかについて理解を深めます。
- ② 各機関の定めた目的・目標によって様々な価値やアプローチ、人々との連携方法を体験し、チームワークの進め方、期限や目標を定めた開発手順等について理解を深めます。
- ③ 基礎研究と研究開発の違いや異なる文化の違い等、これまでと異なる環境に身を置くことで、多様な体験を獲得します。経験の多様性を重視し、様々な経験に向かいます。
- ④ 外国語を使ったコミュニケーションや、様々な研究者・その他の職能の人々との出会い等を重視し、情報へアクセスする行動力、様々な人とネットワークを作り出す力を獲得します。



研究インターンシップの履修に関して

対象

博士前期課程

修得単位

専門教育科目「研究インターンシップ」4単位

時期と期間

- 博士前期1年
- 3か月程度（派遣先機関によって異なります。）
多くの場合、9月～12月頃ですが、他の時期も可能です。

研究インターンシップ派遣先機関

国内外の企業、研究機関、地方自治体、および海外の大学等で、学生の専門分野に関連した研究活動を実践できる機関。

派遣前に必要な事項

次の①～④は派遣前に必要な事項です。特に、知的財産権、工学倫理に関する科目の履修について、履修登録日に注意してください。

① 知的財産権等に関する大学院科目

派遣先機関の知的財産権を侵害しないこと、学生自身の権利を守ることを目的に、知的財産について学びます。

共通科目「知的財産権特論」または工学デザイン科目「技術者基盤」のいずれか

② 工学倫理に関する大学院科目

技術者に必要な倫理について修得します。開講時期に留意して受講してください。

共通科目「工学倫理特論」、「技術と倫理」または「社会工学技術倫理論」のいずれか

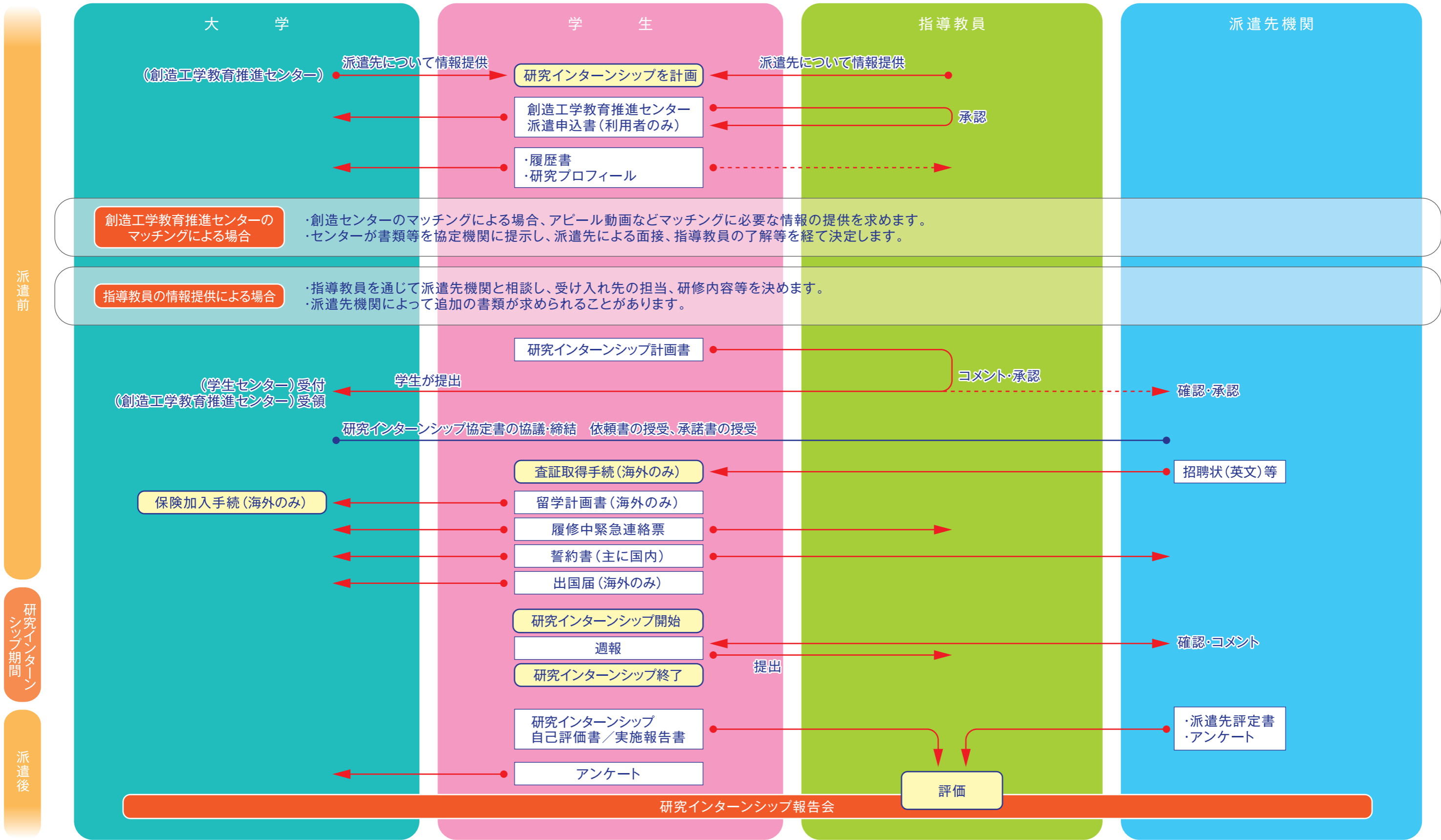
③ 研究倫理に関するeラーニングの受講

研究者に必要な倫理について、APRIN eラーニングを受講して確認します。派遣先機関が決定した学生に、受講方法を案内します。

④ 派遣オリエンテーションへの参加

研究インターンシップ派遣前に、オリエンテーションを行います。必ず参加してください。

3 スケジュール(例)



4 履修に向けての準備

1 研究インターンシップの派遣先

指導教員が紹介する派遣先と、創造工学推進センターが紹介する派遣先があります。

2 旅費などの費用

行先や状況によって金額が異なりますが、費用は原則自己負担ですので、十分に検討してください。

3 派遣前に身に付けるべき能力

研究インターンシップ中に身に付けたい目標を明確にしてください。専門知識やコミュニケーション力も大事です。特に海外派遣の場合は、原則としてCEFR・B2レベル(専門分野における会話ができる程度)の英語力が必要です。

4 保険の加入

研究インターンシップ中は、事故に遭わないようくれぐれも安全・健康に留意して生活してください。しかしながら万が一、事故に遭ってしまった場合に備え、研究インターンシップでは、右記の保険の加入を義務付けています。

本学では、全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険Aタイプ(学研災)」及び「学研災付帯賠償責任保険(学研賠)」に加入することとなっています。万一、加入していないようでしたら、必ず加入してください。

海外でインターンシップに参加する学生は、これらに加えて、必ず「学研災付帯 海外留学保険(付帯海学)」に加入してください。「付帯海学」は保険金による補償の他に、海外における各種支援サービスが受けられます。さらに補償内容が不足と思われる場合は、各自で追加して保険に加入してください。いずれも補償内容は加入時のパンフレットで確認してください。

- 国内インターンシップ
学研災、学研賠
- 海外インターンシップ
学研災、学研賠、付帯海学
- その他、受入先機関が加入を求める
保険に加入してください。

問い合わせ先

- 学研災、学研賠
学生生活課 奨学支援係(19号館1階)
- 付帯海学
国際交流課 学生交流係(19号館2階)
<http://www.jees.or.jp/gakkensai/>

5 海外における危機管理について

始めに「自分の身は自分で守る」という意識を持ってください。

本学の海外派遣等危機管理マニュアル(<https://www.nitech.ac.jp/int/abroad/management.html>)を熟読し、外務省海外旅行登録「たびレジ」及び危機管理会社(大学が契約しています)への登録を必ず行い、情報を収集すると共に有事の際の連絡先についても再確認してください。

問い合わせ先:国際交流課 学生交流係(19号館2階)

6 研究インターンシップに関する情報

創造工学教育推進センターウェブサイト 学内公開資料
(<https://creec.web.nitech.ac.jp/internal/>)

リンクされているMoodleページも参照

派遣の手順、書類様式、派遣先機関などが閲覧できます。

(指導教員による派遣の場合は、派遣の手順が異なる場合もあります。)

5 研究インターンシップを終えて(参加者の声)



生命・応用化学専攻 / 生命・物質化学分野

飛田 卯らら

実習先: 株式会社パロマ

通常の2週間程度のインターンシップとは違い、実際の業務の一部を任せていただいたり会議に出席させていただいたり、社員の方と同じように扱ってもらえることが多かったです。そのため、技術開発のイメージを掴むことができると共に、社会人として必要な素養や考え方を、身をもって学ぶことができました。この経験は、自分の理想とする働き方や自分自身の特性を見つめ直すきっかけとなり、その後の就職活動において大いに参考になりました。また、企業での研究開発におけるスピード感の重要性、責任の重みを体感したことで、今後の大学での研究生活においてもそれらを意識して取り組みたいと感じました。

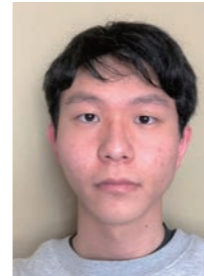


創造工学プログラム / 応用物理分野

出口 陽一

実習先: キオクシア株式会社

私はキオクシア株式会社で長期インターンシップを行いました。キオクシアのインターンシップではSDカードの工程不良品や戻入品を解析し、歩留まり率の向上を行う部署に配属され、SDカードの動作原理や生産工程、解析手法について座学や実習を交えて学びました。また、会議にも参加することができたので生産の現場で起こっている問題やそれらが解決されていく過程をリアルタイムで追うことができ、半導体という多くの人や資源が投入されている製品の品質が日々向上していく過程を肌で感じることができました。これらの経験は自身の技術者としてのキャリアを考えるうえで非常に参考になりました。



創造工学プログラム / 応用物理分野

三宅 理久馬

実習先: 株式会社 山一ハガネ

研究インターンシップは一時的とはいえ社会人として働くことができるという点が魅力だと思います。企業での研究開発において重要視されていることなどを肌で感じて学ぶことは短い期間の業務体験では難しいことです。また、教わるばかりではなく通常業務にも取り組んでいたため、学んだことをすぐに活かすことができ、成果を上げるという形で自分自身の成長を感じることもできました。派遣先の方のほからい様々なセミナーに参加させていただいたことで特許の上手な扱い方なども学ぶことが出来ました。こうした経験は大学での研究活動に活かすことができ、社会に出た後にも必ず役に立つものだと思います。



創造工学プログラム / ソフトマテリアル分野

釣部 真琴

実習先: クレムソン大学(アメリカ)

私は、アメリカのクレムソン大学で半年間の研究インターンシップを行いました。異国での生活を通して、知らない人でも話しかけて褒める文化は自己肯定感が上がり、人の温かさに触れることができました。また、渡航前は語学力に大きな不安を抱え、インターンシップ当初も英語で自分の意見を言う難しさに直面しました。しかし、日常的に英語を使うことで、徐々に英語で考えを伝えられるようになり自信に繋がりました。母国語では通用しない環境であったからこそ得られた経験であると実感しています。今後も、英語力のさらなる向上を目指して勉強を続け、国際学会等を通じて世界の研究者と交流したいと思います。



創造工学プログラム / 電気電子分野

上田 理生

実習先: オウル大学(フィンランド)

フィンランドのオウル大学は北極圏まで車で3時間ほどの小さな街にあります。オーロラの見られるこの地で私は医療向け無線通信規格の研究をさせていただきました。研究チームとのディスカッションやミーティングでのプレゼンでは、伝えたくても伝わらないジレンマを経験しました。そこで、文化的な違いを補う事を意識してみたり、細かく説明してみたり、試行錯誤しました。留学から得られたものは無形ですが、宝物で武器だと思います。